

ハスモンヨトウ情報第3号（野菜類、花き類）

令和8年10月16日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病虫害防除室

**ほ場の発生量及びフェロモントラップ誘殺数は一部地域でやや多い
今後のほ場での発生に注意してください。**

1 ほ場における発生状況

10月上旬にキャベツほ場で実施した巡回調査（県内10地点20ほ場）において、寄生株率は1.35%（平年0.65%、前年0.75%）で、やや高い状況です。

10月上旬にハクサイほ場で実施した巡回調査（県内6地点12ほ場）において、寄生株率は2.75%（平年0.35%、前年0.83%）で、高い状況です。

2 フェロモントラップにおける誘殺状況

県内8地点に設置（野菜ほ場）したフェロモントラップのうち、3地点で直近1か月の総誘殺数がやや多い状況です（図）。

- ・南知多町（キャベツほ場）では1,675頭（平年852頭、前年641頭）と過去10年間と比較して**3番目に多い**。
- ・田原市（キャベツほ場②）では4,521頭（平年3,945頭、前年2,884頭）と過去7年間と比較して**2番目に多い**。
- ・碧南市（ニンジンほ場）では906頭（平年447頭、前年1,926頭）と過去10年間と比較して**3番目に多い**。

3 今後の見込みと防除対策

名古屋地方气象台10月15日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高いと見込まれ、本種の発生に好適な条件が予想されます。**今後もほ場へ飛来することが予想されるため、薬剤防除後もこまめにほ場を巡回し、発生状況に注意しましょう。**

齢の進んだ幼虫には薬剤効果が低下するため、若齢幼虫のうちに防除しましょう。
（参考：農林水産省農薬登録情報提供システム（<https://pesticide.maff.go.jp/>））

なお、一部の殺虫剤に対し感受性の低下を確認しているため、薬剤選択は指導機関に相談するとともに、同じIRACコードの薬剤は連用しないようにしましょう。

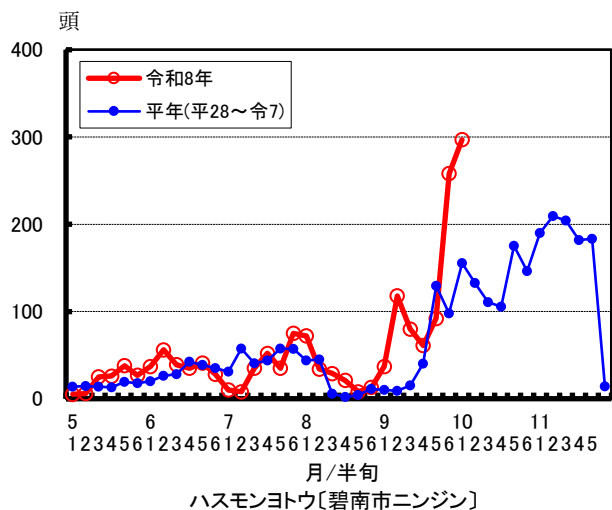
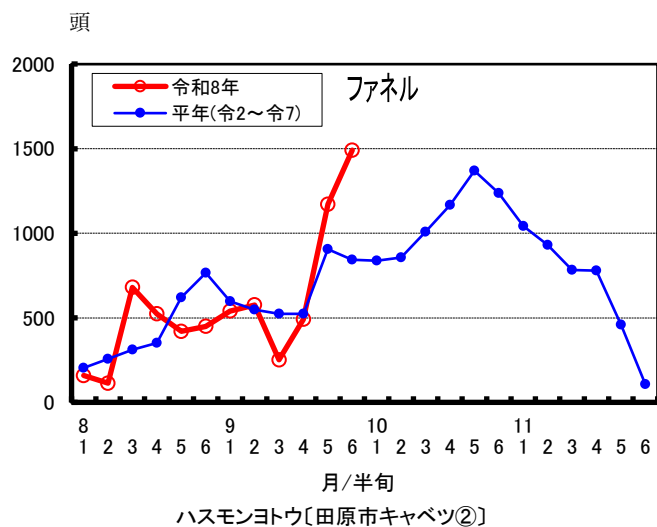
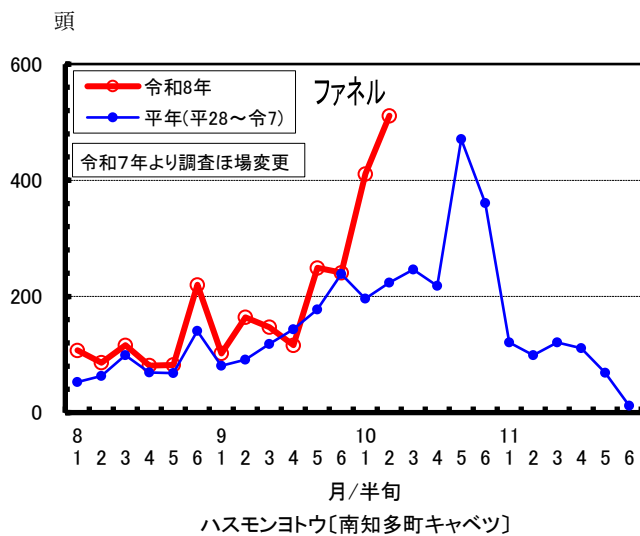


図 フェロモントラップにおける成虫の誘殺数（単位：頭）